

いもう 葦毛通信



サワギキョウ

2024年3月18日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL : 0532-56-6060

No. 151

1、ニホンミツバチ(在来種)の巣箱

1) 設置後の経過

2023年3月に葦毛湿原の花の花粉を在来種のハチであるニホンミツバチに運んでもらうために巣箱を3か所設置しました(葦毛通信No.135)。分蜂の季節である4・5月には毎週確認しましたが、ミツバチは巣に入りませんでした。夏ごろにオオス



W地点の巣箱(2024年3月7日)



ドロバチの巣

ズメバチに攻撃されて巣を放棄し、新たな巣に引っ越す場合があるが、その確率はかなり低いとニホンミツバチの養蜂を行っている方に言われていたので、6月までは確認しましたが、その後はあきらめて確認していませんでした。2024年3月7日に確認したところ、T・W地点の2か所はドロバチが2～3か所に巣を作っており、巣の口が開いているものも見られました。しかし、X地点の巣箱にはニホンミツバチの巣がありました。

2) X地点の巣箱

X地点の巣箱は葦毛湿原の中央北側の低い位置で、南向きの平坦なところに設置しました。前面が明るく広がり湿地中央部が見えるところです。当初3段で設置しましたが、大きすぎるという指摘があり、2段に変更しました。2024年3月7日に現地で確認したところ巣がありました。しかし、ミツバチはおらず、若干の死骸が底に溜まっていた。巣はスムシ(ガの幼虫)に食べられており、幼虫も見られました。巣は放棄されており、豊橋市文化財センターに持ち帰り、解体・調査して清掃した上で再設置しました。



X地点の巣箱(2024年3月7日)



ニホンミツバチの巣(対角線方向に巣板が6枚ある)

2) 巣の状況

2024年3月11日に巣を持ち帰り、調査と記録をして清掃の上、再設置しました。最下段の巣箱には巣門（入口）の周りに風よけの板を付けています（下上左写真）。

蓋を開けると天井部のスノコの間から細長い筒状のものが出ていました。これがスムシの幼虫が出した糸でできた繭のようなもので、巣の内部や巣箱の底に溜まっていた（下上右写真）。金網の下にある丸い容器はニホンミツバチの誘引剤で、この下にアリが巣を作っていました。アリは誘引剤のケースの下に固まっており、卵を産んで幼虫も見られ、巣の作りはじめと思われます。



巣箱（2024年3月11日）



蓋を外した天井部（2024年3月11日）



アリの巣（2024年3月11日）



左下部分の拡大：中央に幼虫

巣箱の底にはニホンミツバチの死骸とスムシの繭と思われるものが溜まっていた（次頁上左写真）。ニホンミツバチの死骸は200～300匹程度でそれほど多くはありませんでした。また、巣門は上部にかじられた跡がありました。オオスズメバチが攻撃のために広げようとした跡かもしれませんが、はっきりとは分かりません。

巣板は箱の隅から対角線上に平行に6枚ありました（次頁中写真：上下逆になっている）。天井のスノコに接着した側からスムシの侵入があったようで、根元の部分が食べられて無くなっているところや巣に侵入したスムシの繭のようなものが直線状に伸びているのが観察できました（次頁下右写真）。

巣板の一部に丸い穴が開いていますが、この部分は巣の落下防止のために直径4ミリの竹ヒゴを十字に設置したところで、竹ヒゴを避けて巣を作っていたようです。



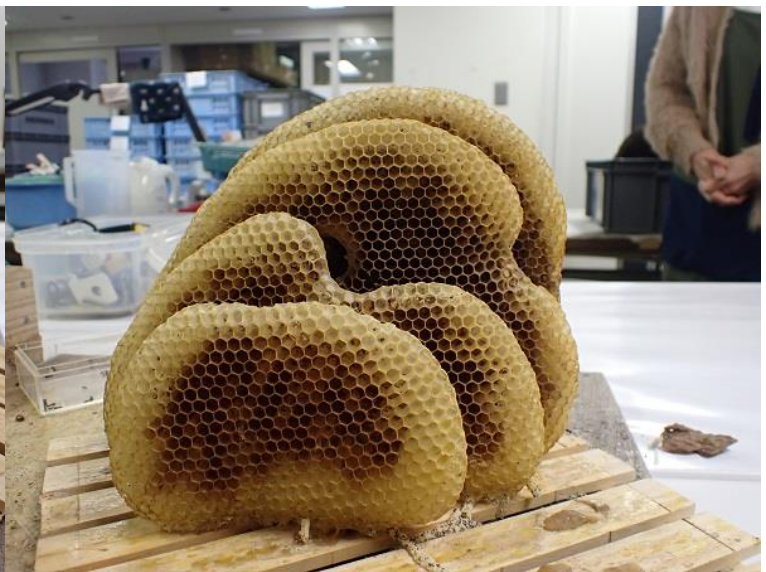
巣箱の底に溜まったミツバチの死骸



巣門（上部がかじられている）



ニホンミツバチの巣（横から：逆位）



ニホンミツバチの巣（正面から：逆位）



スムシに食べられた状況



巣の中の細長いものがスムシの菌、黒い粒は糞？

針金や木で落下防止を行った際には巣に直接触れて作られている例があるところから、ニホンミツバチは竹に含まれる成分が苦手なのかもしれません。巣板の一部には羽化できずに死んでしまった個体がいくつか残っていました（次頁下写真）。



ニホンミツバチの巣(中央下の巣板の下方には幼虫が残っていた) スムシの幼虫(約2cm)



ミツバチの幼虫が残っていた部分

羽化直前で出られなかったニホンミツバチ

3) まとめ

2023年に設置した巣箱は3か所でしたが、1か所でニホンミツバチの巣が作られていました。残念ながら、今回は巣が放棄されていましたが、巣箱に入ることは確認できました。ニホンミツバチが定着すれば、葦毛湿原の湿生植物の受粉機会が増えると期待しています。

今回の場合は、巣の状況から7～8月頃に巣を作り始め、新たな個体の羽化がある程度進んだ段階でオオスズメバチの攻撃にあい、また、スムシに巣を食べられる状態になって、巣を放棄して他へ逃げて行ったのではないかと考えています。巣には蜂蜜はまったくなかったため、新たな地点の巣に移動させたのではないかと思います。

今回ニホンミツバチが巣を作ったのは3か所設置したうちの1か所のみです。ニホンミツバチが巣に入る確率は5%程度だともいわれていますが、今回は3か所のうちの1か所なので、かなり高い確率で入ったと思われます。

巣を作った巣箱は、南向きの開けた場所で誘引剤を設置した巣箱です。他の2か所は森の中の暗い所、標高が高く北向きで湿地全体が見渡せるような開けた場所でしたが、誘引剤は設置してありません。環境の違うところに巣箱を設置しましたが、今回巣を作った巣箱の環境が適していたのか、誘引剤の効果なのかは分かりません。

今後は、今回の経験をもとに、ニホンミツバチが安心して多くの巣を作れるように、巣箱の設置を進めたいと考えています。